

2018年度入学式式辞

雪の降ることも、積もることもあった冬も終わり、春爛漫の今日、京都薬科大学へご入学されました皆さん、おめでとうございます。これまで入学生の皆さんを慈しみ育ててこられたご父母やご関係の皆様も、さぞお喜びのことと存じます。

本日、ここに学部入学生 407 名、大学院入学生 11 名の皆さんをお迎えすることは、京都薬科大学にとりまして大きな喜びであります。土屋理事長はじめ法人役員、名誉教授、教育職員、事務職員、そして京薬会役員、教育後援会役員の皆さまとともに、今日の佳き日を心からお祝い申し上げます。同時に、薬学の世界を目指して厳しい受験勉強の道をたどってこられた皆さんの努力と熱意に、敬意を表します。

本学の建学の精神は「愛学躬行」であります。この意味するところは「学問を愛すると共に、自ら実践すること」であります。本学は、1884 年、明治 17 年、京都府から招聘されたドイツ人教師、ルドルフ・レーマン先生の教えを受けた者 18 名が設立した京都私立ドイツ学校に始まります。彼らはドイツ語を通して西洋の医学、薬学を修得しようとした若き愛学の徒であります。その後、私立京都薬学校、京都薬学専門学校を経て、1949 年、昭和 25 年に京都薬科大学へと昇格し、そして本年まで 130 有余年が経ちます。このように本学は、我が国の薬系大学の中でもっとも古い大学のひとつであり、これまでに輩出した卒業生は約 2 万 3 千人、このうち約 1 万 6 千人の方々が、現在、国内外の大学、製薬企業、病院・薬局、行政など、多岐にわたる分野で活躍中であります。創設期の名もなき若き学徒たちの一途な思いを継承された諸先輩がこの歴史を創ってこられ、何物にも代え難い財産となっております。

2006 年に薬学 6 年制が始まり、すでに 10 年以上が経過しました。この間、本学は Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた人材、すなわち「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成を目標に教育・研究システムの構築と実行に注力してきました。

その成果は、薬学教育評価機構から、『京都薬科大学は、明確な教育理念に基づき構築された教育プログラムと、それを実践するための優れた教員および設備を有し、教育・研究への熱心な姿勢と活動が認められる。単科の私立薬科大学の模範となるべく、さらに発展することを期待する。』と高い評価を頂いたことから明らかです。この評価に慢心することなく、私たちは6年制薬学教育・研究の第2ステージを目指しております。それは、研究活動を軸とした科学教育を基盤に、「薬学領域で光る人材」「薬学の枠を超えて活躍する人材」を育成することであり、この人材を輩出することが6年制薬学を先導する本学の使命であると考えています。新しい目標のもとに、皆さんも教職員とともに生き生きと動き、大きな波動となり、「単科の薬科大学」の既成の枠を超えましょう。そうして、本学の130有余年の歴史に新しいページを加えましょう。皆さんが本学で、未来を見据え、薬学を軸として幅広い領域で活躍する人に成長することを期待しております。

さて、皆さんにお尋ねしたいことがあります。今日からの6年間はなにをすべきときでしょうか？ これからの6年間は「薬学のプロフェッショナル」になるための期間であります。スポーツの世界に例えるならば、一軍の試合に起用される選手となるための鍛錬の期間です。一軍を目指すプロ選手たちは、試合に起用されるために、勝つために、観客を魅了するために、日々、素振りをし、守備練習をし、ドリブル練習、連携練習に汗を流しています。また、与えられたメニューをこなすのではなく、またコーチの指示を待つのではなく、主体的に考え、改善する努力をし、さらに得意技に磨きをかける、これが一軍で活躍する選手たちの行動であります。薬学の世界に戻りましょう。薬学の領域は、どの分野であっても、病める人を出さない、病める人を救う、つまり疾病を予防する、疾病を治療するプロフェッショナルの領域であります。人の生命を左右する職業人となる領域であり、学ばずして患者さんに対応することはできません。憧れだけでは職能を発揮することはできません。薬学のプロフェッショナルになるための鍛錬の6年間であると認識していただきたく思います。

薬学のプロになるために皆さんがなすべき行動とはなんのでしょうか？なにを身につけね

ばならないのでしょうか？ 予防のための、また治療のための知識でしょうか？技術でしょうか？ 知識も、技術も必要です。さらに、身につけた技術、知識を発揮するためには、病める人の気持ち分かる、心豊かな人間性も必要ではないでしょうか？

勉学ばかりでは6年間ももたないのも事実です。遊ぶことも必要です。しかし、それに流され、本学学生としての目標を間違えている残念な学生を見ることもあります。なかなか気付かず、時間ばかりが過ぎ、戻れない姿は残念極まりないことです。これを防止するためには、よき友人・先輩を早くに見つけることです。よき人とは、成績の優良ではなく、努力を惜しまぬ人のことで、ともに同じ目標に向かって進むひとです。楽しいときも、悩めるときも、ともに心を通わせ話し合えるひとです。このような友人、先輩との交流によって多くのことを啓発され、日々、自分を見つめて欲しいと思います。

最近、小松美羽さんという画家が書いた「世界のなかで自分の役割を見つけること-最高のアートを描くための仕事の流儀」という本に出会いました。彼女は女子美術大学短期大学部を卒業後、描きたいという一途な思いのもと、経済的な苦難を乗り越えて、いまや作品が大英博物館に永久保存されるまでになった、まだ30代の前半のひとです。彼女はその本の冒頭に次のようなことを書いています。

私は特別な、選ばれし人間ではない。

誰もが役割を持っていて、私はたまたま、それに早く気がつくことができた、ただそれだけだ。

あなたが世界の中の自分の役割に気づき、それを果たす生き方をする。---「自分の役割を見つける」とは、生を受けた意味を見つけるということでもあるのだから。

今を迷っている、将来を迷っている方もなかにはおられるかもしれませんが。迷うことは若いあなた方の特権でもありますし、いまを、また将来を考えている証しでもあります。しか

し、6年間まず「潔く」薬学の勉学に励んでみることに、これがいまの皆さんのすべきことでもあります。

新入生の皆さん、本学の礎を築かれた130有余年前の少壯の学徒に続き、薬学に学び、「世界のなかの自分の役割」を見つけましょう。

皆さんの健康と充実した大学生活を祈念しまして、私の式辞と致します。京都薬科大学へのご入学おめでとうございます。

2018年4月2日

京都薬科大学長 後藤 直正